

大震災のトルコで「神戸から来た」と言ったら、「おお、地震先進国の！」と言われました。

フォトジャーナリスト  
宇田有三

神戸市内の中学校で英語教員をしていたとき、写真係に割り当てられ一眼レフを購入。行事撮影などをするうちに写真に魅せられ、本格的に勉強したいと、退職してアメリカに留学したのが9年前。現在、フォトジャーナリストとして、世界を舞台に写真を撮り、記事をまとめている。

グアテマラ、エルサルバドル、ピルマ（ミヤンマー）……。軍事政権のテーマを選び、単身出かけて行く場所の多くは、確かな安全が約束されていない地だ。最低でも1カ月、4カ月。できる限り長く現地滞在し、難民キャンプに泊まり、現地の人と同じものを食べ、生活する。その中で、自らの視点で「切り取りたい」と感じた瞬間をフィルムに収める。

でも、自分としては、何も無い時にも出かけて行って、普通の生活を撮りたいと思うんです。普通に生活して、いつものように畑へ行く道が、もしかすると夜の間に地雷源になっているかもしれない、という国がある。そんな危険と隣り合わせの中で普通に生活し、笑っている。その状況、生活者の姿や思いをすべて収められるような、見る人の体を震わせる1枚を撮りたい」

トルコの大地震では発生翌日に撮影依頼が入り、その次の日に現地へ。7日間滞在し、現地の人々や救助隊の活動、押しつぶされた町を撮った。「地元の新聞には、神戸のことが大きく紹介されていました。大地震の被害から、短期間でこれほどまでに立ち上がっている。また、神戸での経験を生かした日本の救助隊の活動は、プロフェッショナルリズムに徹しているとして、他国の救助隊から高く評価されていました」

グアテマラの公園にて



口々に「おお、地震先進国の！」と言われたそうだ。「日本人というより、世界人という自覚の方が強い。だから、どこから来たかと問われると、まず「神戸」なんですよ」

トルコの地震で、最もひどい被害を受けたアダバザル市の倒壊した高層住宅。



海外でどこから来たのかと問われるたびに「フロム・コウベ」と答えているという宇田さん。トルコでは、

## profile

神戸生まれ、在住。90年ボストン留学し、フォトジャーナリズムを学ぶ。写真コンテスト入賞や個展多数。96年神戸大学大学院国際協力研究科博士前期課程修了。98年「平和・共同ジャーナリスト基金」奨励賞受賞。ホームページも開設中。  
(<http://www.uzo.net/>)